平成28年度学校評価シート

学校名:和歌山県立和歌山工業高等学校 学校長名:田村 光穂 ÉΠ

目指す学校像 育てたい生徒像 ○本県の伝統ある工業高校として、基礎基本教育の原点を忘れず、職業教育のリーダー的役割を果たす、社会に貢献する学校

○教師と生徒が共に創造性豊かなこれからの工業教育(生徒が輝き、教師が夢を語ることができる)に取組む学校

○校訓である「質実剛健」に相応しい、健全な自主自立の精神や勤労を尊重し、国内外の産業発展に貢献できるグローバルな視野を有する生徒

重点目標	1進路保障に向け学力の充実を図ると共に、多様な学習の場の提供と、国際人の育成を行う
(学校の課題に	2 基本的生活習慣の確立と、問題行動の防止に努め、責任感の強い人材を育成する
即し、精選した上で具体的かつ明	3 広報の充実と地域との連携を深め、工業教育の新しい流れに対応できる、特色ある中核校を目指す
確ご記入する)	4 適正かつ円滑な校務運営に努め、教職員の意識向上を図り、教職員が成長する組織を構成する

	Α	十分に達成した(80%以上)					
達	В	概ね達成した(60%以上)					
皮度	O	概ね達成した (60%以上) あまり十分でない (40%以上)					
	Δ	不十分である(40%未満)					

学校評価の結果と改善方策の公表の方法

年度末に発行する学校だよりに学校評価の結果を 掲載するとともに、本校ホームページでも公表す る予定である

(注) 1、重点目標は3~4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する 2、番号欄には、重点目標の番号を記入する 3、評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する 4、年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する 5、学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う

	自己評価							
	重 点 項 目				平成 28 年度評価 (平成 29 年 3 月 29 日 現在)			平成 29 年 2 月 実 施
番	現比課題	評画	具体頂組	評価計票	評価項目の主対状況	主	次年度~0課題と改善方策	学規というの意見・要望・評価等
1	○基礎学力の定着	○就職試験第1次 合格率の向上 ○ALを用いた言 語学習環境の整 備 ○授業改善等常に 評価、点検及び考 査できる組織づ くり	○「しっかり教える授業」の実践を 通じ、「なぜ、どうして」と自ら 考える力をつける取組 ○言語力向上に向けた実践 ○大学等の公開授業への積極的参 加を促し、専門知識を習得させる	を考慮した、考査検針回数 ○1単位時間を柔軟に運用し た実績 ○留学の機会の提供実績	○実力テスト (5教科平均) 1年46.8点 (前年度52.2点) 2年41.2点(前年度46.8点) 3年44.8点 (前年度52.8点) ○AL対応教室 (スマートルーム) を増設した ○授業改善等、研究授業実施者3名	В	○次期学習指導要領を見据え、基礎基本の定義を 柱とし、学び値しの充実と、学びに向かう力の 醸成を計画的に実施する ○実力テストの積極的活用 ○ALを使った授業展開 ○授業研究を行い全職員で授業改善に取り組む ○国際化への対応や創造(起業)することへの意 識の向上 ○進路意識を向上させ、県内外の企業へ即戦力と して優秀な人材として就職をさせる	<生徒評価>生徒評価平均は前年比でA え、E評価減った 年度当初示された和 ドへの理解が少しずつ見えてきたと思わ となった 課題は、風紀や学ぶ意欲の向 ことで、和エプライドを充実発展させ自 路決定につなげること。 〈保護者のご意見(抜粋)〉 ・緊急時の学校からの連絡手段の確立を に環境整備を行わせる教育を希望します 的に活気がないように思います。・イン
2	○家庭の協力を充実させる体制の構築○基本的生活習慣の一層の確立○規範意識の向上	. –	育てる意識づくりに取り組む ○知育・体育・徳育それぞれの観点 から、生徒と教師が共感し、望ま	携連絡の回数 ○心の教育の充実を図るため 、読書の回数や、図書館等	○特別指導回数的年度より 1件減 ○各学期末やその他随時保護者面談を実施し生徒の学習その他の 状況等について相互理解を深めている ○服装頭髪等身だしなみや、生活態度について、本校生徒してふさ わしい指導を続け意識向上に努めている ○教育相談を通じ生徒の心の支援を行っている ○図書館利用状況 読書33% 辞書辞典参考書利用3% 貸出19%	В	○生徒自身が基本的生活習慣や身だしなみについて意識が向上するよう指導を行う ○問題行動の未然が止と特別指導件数を減らすため、学校全体での計画的な指導を行う ○通学マナーの向上 ○地域に親しまれる和工生を目指した地域貢献活動の充実 ○学校図書館活動を通じ、読書に加え、文化芸術に触れる機会をつくる	ップを体験しましたが親としては将来と会社や位ごとにかかわるのかが分かりづく学校評議員のご意見(抜粋)>・生きる力の付いた人材を養成してほし礎学力の向上させるための検討を。・中よって学校教育を中心に自由に語り合えなっているのは喜ばしいことです。・重ついて進路指導は将来を見据えきめてい導がされている。・グローバルな視点でコミュニケーションする力を育成する取
3	○小中学校や企業 等に本校の特色 が伝わっていな い ○地域と共にある 学校づくり	○地域との連携の 充実○インターネット やマスコミなど への、情報提供の 状況○企業訪問の状況	○実習・実験等、授業の公開をする ○県内工業高校との積極的交流を	○ホームページのアクセス数 ○県内工業高校と生徒会、ク ラブ活動等の連携実績 ○中学校教員や企業人事担当 者を招いた実績 ○体験学習や学校開放週間等 来校者数	○夏季休業中の工場見学クラス数 5クラス ○全国大会やインターハイ、近畿大会等、体育クラブ・文化クラブ とも出場多数 ○学校開放週間、和工祭(文化祭)、体育大会の来校者数 約320	В	○地域に親しまれる開かれた学校づくりを念頭に、保護者や地域の方が参加しやすい学校行事の工夫に取組む。 ○生徒会等通じ、本校の広報活動の工夫をする。 ○中学校や小学校等請問し、本校の教育内容を理解してもらい、中学生の体験学習やその他の機会につなげ、本校希望者の増加を目指す	少し積極的に行ってもよいのではないか 生はミドルリーダーの育成、若手教員の 上を目指して意図的積極的な素晴らしい されている。・小学校の教育現場にも教 されることも素晴らしい取組と考える。 評価 保護者(前年度) 評議員(前年 A 27%(42%) 37%(54%) B 42%(35%) 48%(29%)
4	○校務の簡素化と 成長性の高い、組 織づくり	し ○メンター制の導 入やミドルリー ダーの育成	○若手教員が常に夢を持って職務 に適進できる体制づくり ○各種委員会のスリム化	○月1回程度の若手教員の勉強会の開催実績 ○全職員による、学校運営の検証回数	○各種委員会の約廃合を行い2つの委員会を減じた ○メンター制を用いたミドルリーダーの会和工NEXTや若手教 員futuersの勉強会を、それぞれ月1回程度開催するとと もに、それぞれ違う観点から他校期間など積極的活動ができた ○職員会議の回数 23回 (昨年度23回) A評価13.3% (昨年度29.8%) B評価59.7% (昨年度53.8%)	В	○全教職員が働きやすい職場環境を構築する ○ベテラン教員、ミドルリーダー教員、若手教員 それぞれ年齢層に応じ、指導アドバイスできる シームレスな人間関係を作る ○校務分掌等の精選や会議の円滑運営の工夫 ○効果的な管理職のマネジメント	C 28% (20%) 15% (15%) D 2% (0.9%) 0% (2%) E 1% (1.2%) 0% (0%) <課題>基礎学力向上の意見が多い、生比べAが減っている。学校の取組が知らい傾向が強い、今後より一層の努力を要

一种新规模 平成 29 年 2 月 実施 学校関系からの意見・要望・評画等

<生徒評価>生徒評価平均は前年比でA評価が増 え、E評価減った 年度当初示された和エプライ ドへの理解が少しずつ見えてきたと思われる結果 となった 課題は、風紀や学ぶ意欲の向上を図る ことで、和エプライドを充実発展させ自信ある進 路決定につなげること。

・緊急時の学校からの連絡手段の確立を。・生徒 に環境整備を行わせる教育を希望します。・全体 的に活気がないように思います。・インターンシ ップを体験しましたが親としては将来どのような 会社や位ごとにかかわるのかが分かりづらいです <学校評議員のご意見(抜粋)>

生きる力の付いた人材を養成してほしい。・基 礎学力の向上させるための検討を。・中堅教員に よって学校教育を中心に自由に語り合えるように なっているのは喜ばしいことです。・重点目標に ついて進路指導は将来を見据えきめていねいな指 導がされている。・グローバルな視点では英語で コミュニケーションする力を育成する取組をもう 少し積極的に行ってもよいのではないか・校長先 生はミドルリーダーの育成、若手教員の指導力向 上を目指して意図的積極的な素晴らしいシゴトを されている。・小学校の教育現場にも教員を派遣

保護者(前年度) 評議員(前年度) 27% (42%) 37% (54%) В

42% (35%) 48% (29%) 28% (20%) 15% (15%) 2% (0.9%) 0% (2%) 1% (1.2%) 0% (0%)

<課題>基礎学力向上の意見が多い 生徒評価と 比べAが減っている 学校の取組が知られていな い傾向が強い 今後より一層の努力を要する。